

私の山荘の裏庭のカラマツ林に、ひときわ鮮やかに紅葉する植物があります。カラマツのように独立した樹木ではなく、カラマツの幹にツタのように這って幹や枝を伸ばす植物です。しかし葉を見るとツタとはちがいます。

これはツタウルシという植物です。「ツタウルシ (蔦漆)」 *Toxicodendron orientale* は、ウルシ科の落葉樹木 (蔓性木本) です。カラマツの根元から、かなり太い幹を伸ばし、カラマツの幹の相当に高い場所まで昇っていきます。葉が必ず3枚に付く「三小葉」が特徴です。

ウルシの成分に「ウルシオール urushiol」「ラッコール laccol」などがありますが、ツタウルシの葉にも多量に含まれています。私の亡祖母は、ウルシに極端に弱く、ツタウルシのそばを通るだけでもかぶれると話して

ました。しまいには「ウルシの話」をただけでも体中が痒くなるとも言っていました。その隔世遺伝なのか、私も子どもの頃から皮膚が弱く、たびたび皮膚科に世話になっていたのです。ツタウルシの葉にも極力触らないように気をつけています。

カラマツの根元の幹を切ってしまうと心配なくなるのですが、秋の紅葉が非常に鮮やかなので、もう20年もそのままになっています。今年も真っ先に美しい紅葉を見せられました。

2024年10月下旬
北軽井沢

